

SHIRAKOBATO

しらこぼと



2002.5

SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

WILD BIRD



NO. 217

日本野鳥の会 埼玉県支部

バードウォッチング 検 定

今年の3月17日、(財)日本野鳥の会による第1回「バードウォッチング検定」が実施されました。今月号は、その会場で偶然に出会った現役大学生と彼の父親世代の二人による検定体験レポートです。

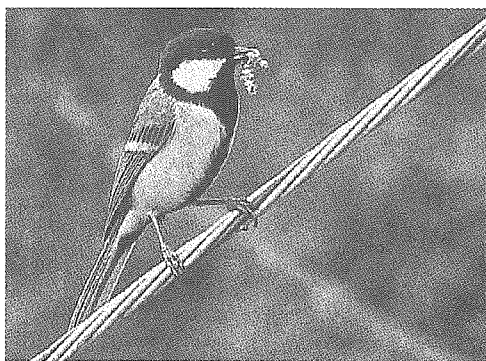
バードウォッチングをより楽しむうえで

伊藤 隆広 (久喜市)

●検定を受けるきっかけ

鳥を見るうえで、知識として知っておくとさらにおもしろくなることは多々あります。例えば、最近私が気付いたことはジョウビタキの行動です。ジョウビタキは時々、おじぎをするように頭を上下させながら、尾をぶるぶる震わせていることがあります。何気なく見ていたジョウビタキですが、実はそのジョウビタキの行動は、図鑑を読んでいて初めて気付いたことでした。もちろん、自分で発見したこともあります。例えば、コサギの足の色は、他のサギとは違って黄色であること。これは、自分で見ていて気付いたことで、後に図鑑で見てもそれが正しかったことを確認でき、うれしく思ったものです。バードウォッチングは、そうして自分で様々なことを発見する喜びを味わうのも楽しみの1つだと思います。ただ、一方で、全てが自分で発見できるものではないし、ある程度の知識がないと発見に結びつかないものもあるはずです。今回のバードウォッチング検定は、1つには「よりいっそう鳥を楽しめるようになりたい」という思いで受験しました。

もう1つ、受験することへの思いを書くな



シジュウカラ (編集部)

らば、案内人として持っておくべき知識を確かめるため、でしょうか。自分も案内人を務めている立場から、案内をするうえで必要な知識は持っておくべきだと感じています。「案内人は気持ちが一番大事」といっても、人に間違っていたことを言うてしまうことはあってはならないし、質問には答えてあげられるほうが良いのは当然です。私は周辺にいる仲間からすれば、ずっと鳥に関することを知らない方でしたので、自分は案内人としてどれくらいの知識があるのか不安がありました。そこで、この機会に自分の知識を試してみよう、そう思ったのです。

●検定を受けて

出題された問題は、鳥を「楽しむ」ための検定として良かったのではないかと感じます。単なる識別の問題のみならず、案内人としての知識、自然保護やマナーの問題など、多岐にわたっていて、「バードウォッチング検定」＝「野鳥の識別試験」ではなかったことです。もちろん野鳥を見るうえで識別は他ならぬ重要な要素ですが、自然保護が叫ばれる時勢を考えると、他の人に身近な鳥を見ることの楽しさを伝えることや、鳥を見る際のマナーについての問題も、「バードウォッチング検定」に必要な問題というべきでしょう。1つ注文をつけられるとしたら、雑学の問題がもう少し多いと良かったと感じました。生物学的知識のみならず、案内するうえで役に立つ文化的な要素を含んだ問題も検定の問題としておもしろいのではないかと、ということです。

この検定を通して、初めて知ったこともありました。難しかったことの1つに、私たち関東地方に住む人間にとって身近な鳥が、実

は分布域が限られていることを問う問題でした。冬の北海道にキジバトはいない…そんなことを知ったうえでキジバトを見ると、また違った気持ちで接することができます。特に、今回は“身近な野鳥コース”ということで、身近な自然を楽しむことの好きな私にとって、この点でかなり勉強になりました。

●考えたこと

この検定は、結果は1～5級という段階であらわされますが、むしろ大事なのは結果よりも、この検定をうけるうえでの準備、また受けたその後ではないかと感じます。この検定を受ける為に図鑑を真剣に読んだ人もいるでしょうし、そこで学んだものは役に立つことが多いと思います。また、結果が出た後、前に書いたように鳥への接し方が変わることもあるでしょうし、これをきっかけに案内人

を目指す人がいてもいいと思います。

ただ、この検定は、単なる“資格”であってほしくないと思います。自分は「より鳥を楽しめるように」という思いと「案内人としての知識を確かめる」という2つの思いがあって受験しましたが、自分が楽しんでいなければ、案内も出来ないはず。もし、「鳥に親しみたい」一步進んで「案内人を目指したい」というのであれば、ぜひ外へ出て鳥を見たり、探鳥会へ積極的に参加したりして欲しいし、この検定をきっかけに少しでも、そういうことをする人が増えて欲しいと思います。

私と同じ部屋にいた子どもは、真剣に図鑑を読んでいました。鳥を見るのが好きなのかどうかはそれだけでは分かりませんが、大きくなっても鳥が好きであって欲しい…と願わずにはいられませんでした。

受けて楽しく、ためになる検定でした

山部 直喜（三郷市）

●受けてみて

「あ～あ、おもしろかった～」。これが検定終了直後の私の感想だ。

この検定に関して私は否定的だった。わけを一言でいうと「楽しいバードウォッチングにテストや等級は似合わない」だ。しかし、検定案内が来て『野鳥』2001年9・10月号を読み返した。曰く「楽しくためになる検定を」、「資格としての認定ではなく、知識をはかる目安としての検定」、「今回は初級という位置づけでもあるので、社会的認知につながるような格づけには直結しない」等々。

それならば「受けてみるか」となったしただい。

問題を解きながら「なるほど、知識としてはこのようなことを身につけてほしいのか」、「こういうマナーを一般にも啓蒙したいのだな」、「学校での総合的な学習や地域での普及にも役立つな」などと考えた。

また、全国で約2,800人という受験者の多さに驚いた。3000円の受験料を考えても、この企画、大成功だったのではないかな。さらに

驚いたのは、受験者の半数以上が「野鳥の会」会員以外ということだ。一般の関心の高さに会員増加の可能性を見た思いだ。

●検討を求めたい

マークシート方式そのものに慣れてない年代の受験者も多い。始める前に簡単な練習問題があってもよい。

約100問の問題数に60分はきつい。競争ではないのだから時間の延長を求めたい。例えば60分たったら退室可能とし、解答時間はその後15分程度の延長を認めるなど。マークシートを塗りつぶす、その動作に時間が必要な受験者もいるのだ。問題数は適当である。

●次回も受験したい

楽しかった、ためになった。わけは自分の知識や姿勢のかたよりに気付かされたからだ。問題も基礎的なものばかりである。出題範囲も検定の案内に記載されている。皆さんも受験されることを勧める。案外、あなたのとなりの人も受験されていますよ。

野鳥記録委員会の情報

日本野鳥の会埼玉県支部野鳥記録委員会

●オオアカゲラ

学名 *Dendrocopos leucotos*

英名 White-backed Woodpecker

分類 キツツキ目キツツキ科アカゲラ属



2001年10月26日(金)、さいたま市秋ヶ瀬公園ピクニックの森で、冬ねぐら用の巣穴掘りをしているところを発見され、翌27日(土)海老原美夫(さいたま市)が撮影、少なくとも本稿執筆時の2002年4月初めまでは滞在したことが、多くの人に継続観察されました。

本県では1992年12月から3シーズン、北本市石戸宿で越冬した(本誌1993年4月第108号、5月第109号、9月第113号、1995年1月第129号)ほか、1917年12月に入間郡高麗村山口で1羽採集された記録(埼玉県動物誌)と、1985年10月に寄居町鐘撞堂山での観察報告(1985年12月第19号)があるだけ。個体数も観察例も少ない種類です。

●ケアシノスリ

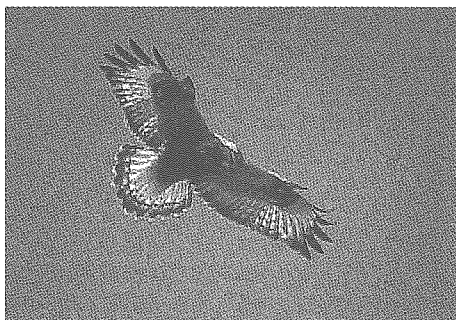
学名 *Buteo lagopus*

英名 Rough-legged Buzzard

分類 タカ目タカ科ノスリ属

2001年11月中旬から深谷市高島の利根川河川敷に滞在しているのが観察され、12月1日(土)海老原美夫が撮影しました。多数のカメラマンの影響を受けて滞り場所を移しながらも越冬し、少なくとも2002年3月中旬まで断続的に観察されました。

数年前に利根川河川敷で誤射されて受傷、



保護されたとの報道例はありますが、本誌で報告された例は少なく、1986年12月に渡良瀬遊水地と寄居町鐘撞堂山で各1羽(1985年2月第17号)、1998年2月に戸田市道満で1羽(1998年4月第168号)の観察報告があるだけです。

●コホオアカ

学名 *Emberiza pusilla*

英名 Little Bunting

分類 スズメ目ホオジロ科ホオジロ属



2002年2月17日(日)深谷市高島の利根川河川敷で木村宏(東村山市)が発見し、同日と24日(日)に撮影。掲載写真は24日に撮影したものです。

本種は1982年11月に朝霞市内で写真のない観察情報があったほか、1993年12月25日に戸田市道満の荒川第一調節池(現・探湖)畔で有山智樹が発見し、同月31日に海老原美夫が撮影した例が、今まで唯一の確認記録(1994年4月第120号)でした。今回は写真を伴う確認記録の2例目です。

オオタカは健在か？

更科 三郎（入間市）

絶滅が危惧されるオオタカに寄せる配慮は、繁殖のための営巣が認められると公共の工事ですえ中断に追いやられるほどに重い。オオタカは人間のこの配慮に应运、絶滅の危惧から脱出できているのだろうか。

機関誌『しらこぼと』に掲載される、日本野鳥の会埼玉県支部行事の探鳥会鳥合わせの結果をめぐり、オオタカの観察件数の推移を探ってみた。その結果、図-1（右）を得た。

9年間の観察件数の推移は、オオタカの健在を思わせるように、年ごとに緩やかな増加を示している。これをもって、オオタカの個体数が絶対的に増えていると早計に思われな。探鳥会の鳥合わせに基づく結果であるので、ここは、探鳥会に参加した愛鳥家のみなさんのオオタカに寄せる関心の大きさと、思いやりや深い視線で緻密な観察をされた結果との見方をしておいたほうがよろしいかと思う。それでも、オオタカの観察件数が年ごとに増加していることはうれしい。

銚子港探鳥会

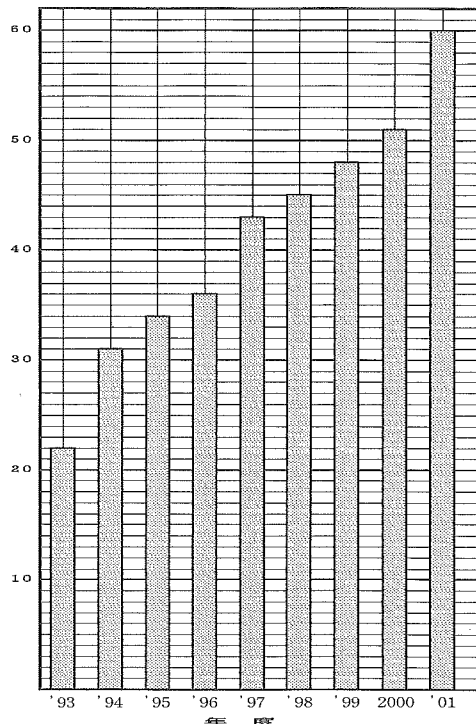
津田あき子（北本市）

いつも野山の鳥ばかり見ていたので、今回水辺の鳥にも挑戦しようと、銚子港探鳥会に参加しました。出発前に珍しい鳥出現の情報もあり、心待ちしていました。

波崎新漁港は、すでにクロワカモメ目当の人でいっぱい、難なく見る事が出来ました。砂浜の先では、スズガモの群の中に白っぽく、黒く長い尾がピーンと伸びたきれいなコオリガモに感動。オマケにクロガモも発見。

銚子港では、堤防上に並んだカモメに悪戦苦闘。頭の中はパンク寸前。そんな時、シロカモメ・ワシカモメを教えて頂き一息。一羽一羽観察していると「シノリガモだ」の声。防波堤の先波間に漂う青と白と茶の色鮮やかなカモに見とれてしまいました。その他にもハジロカイツブリ・ミミカイツブリと見た事もなかった鳥に出合えて嬉しい探鳥会でした。

図-1 オオタカの観察件数の推移



黒いカモ？

陶山 和良（さいたま市）

向こうから犬を散歩させながらやって来た近所の知人が、「あちらの方に真っ黒な鴨がたくさん泳いでいますよ」とのこと。……マックロナカモ……??? 何はともあれ足早にその方に向かった。

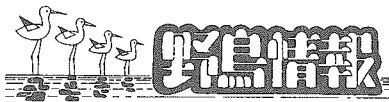
岸辺近くにいたオオパンの群れがいつせいに羽音と水しぶきをあげ、移動しはじめた。壮観であった。41羽ものオオパンの大群を見たのは、はじめてである。

オオパンがカモと間違えられたのは仕方ないこと。声をかけてくれたその行為がありがたい。

ある日の彩湖（戸田市）のでできごとであった。



ふ



さいたま市秋ヶ瀬 ◇1月20日、大久保農耕地でヒクイナの突然の鳴き声に目をこらしていたら、鳴きながら低く1mほど飛んで枯れ草の中に消えた(蓮見京子)。◇2月25日午後1時30分頃、秋ヶ瀬公園子供森でヒレンジャク2羽、ヤドリギの実を食べたり、水を飲んでいて。1羽は胸から腹の黄色が強いが、他はほとんど黄色みなし(鈴木紀雄)。◇3月1日午後3時過ぎ、子供の森でヤドリギにヒレンジャク3羽。ヒレンジャクが飛び去った後、アカウソ♂2羽♀2羽が現れ、盛んに木の芽をついばんでいた(小林ますみ)。◇3月15日午後2時30分頃、大久保農耕地B、C区でノスリ2羽。カシラダカの群れ中に頭部がほぼ白変した個体がいた(鈴木紀雄)。◇3月15日午後3時頃、子供の森入口上空でサシバ1羽、ヤドリギの木の奥でヒレンジャク3羽、林内でマヒワ5羽(鈴木紀雄)。

さいたま市大崎 ◇3月4日、国道463号バイパス上空でカケス1羽(藤原寛治)。

さいたま市桜木町 ◇3月11日朝も確認、大宮そごうに今年もチョウゲンボウが来ています。カラスのいやがらせにも耐えて居続けているようです。繁殖に成功するでしょうか(森本國夫)。

さいたま市下山口新田 ◇3月7日午後1時30分頃、芝川第一調整池の周りの道を歩いていたら、すぐ近くの草原からコミミズクが飛び立ち、低空飛行して見えなくなった。その他ノスリ1羽、コジュリン2羽(鈴木紀雄)。

春日部市下蛭田 ◇12月27日午後4時前、トビ1羽がカラス5羽に囲まれて北へ飛んでいった。近所に住んでいますが、この場所でトビを見たのは数年間でこの1回のみ。飛んできた方角を考えると、3月の支部報に出ていた、岩槻文化公園でカラスにモビングされていたトビではないかと思えます(山田由紀子)。

春日部市内牧 ◇3月4日午前9時頃、アオ

ゲラ♀1羽、アカゲラ♀1羽、上空をマヒワ約10羽が通過。3月7日午前8時30分頃、オオタカ、アカゲラ♂1羽、ベニマシコ♀タイプ1羽。3月12日午前8時頃、オオタカ1羽、ノスリ1羽、アカゲラ♂♀、ヒガラ1羽等(鈴木紀雄)。

幸手市倉松川周辺 ◇1月12日、タシギ4羽並んで脇目もふらず、川岸をつついていた。そっと通り過ぎたが、今冬のタシギは、なぜか逃げない。1月19日、往復1時間でカワセミに5回出会った。1月22日、土手の前方で何かが飛び立った。近くの田の畦に降りて周囲を見て。白い眉がくっきり、オオタカだ。木の上に飛んで一時休んでいたが、カラスに追われて飛んでいった。吉野橋への道路から鉄塔のてっぺんにとまったハヤブサ1羽、この辺りでは初めて出会った。新上戸橋上流傍、大きい鉄塔の中程に今日もいたチョウゲンボウ♀1羽。他にカワセミ、ホオジロ、クサシギ、シメ、アオジ、ジョウビタキ、モズ等合計26種。今日は朝からとても暖かったので、タカ類3種をはじめ、次々出てきた。1月23日、昨日とは大違いの寒い朝、イソシギが斜面の日だまりに体をまんまるくしてじっとしていた(徳田潤子)。

菖蒲町 ◇3月2日、菖蒲中学校南東側田んぼでミヤマガラス百数十羽の群れ。その中にコクマルガラスも10羽以上。コクマルガラスはいわゆるクロマル(黒色型)だが、1羽だけハイマル(中間型)も混じっていた(榎本秀和)。

久喜市菖蒲公園(昭和池) ◇3月2日、カンムリカイツブリ夏羽1羽、多数のカモの中にスズガモ♂1羽(榎本秀和)。

岩槻市柏崎 ◇3月5日、ウグイスのさえずり(藤原育実)。

岩槻市加倉4丁目 ◇3月12日、久伊豆神社上空でツミ1羽(藤原真理)。

蓮田市黒浜周辺 ◇3月11日午後3時頃、ゴルフ場の森でマヒワ2羽以上。ヒタキ類と思われる小鳥が木の枝からフライングキャッチしていたが、逆光でよくわからず。オオタカの声。療養所内でアトリ5羽がシメ

1羽とともに木の芽を食べていた。3月12日午前9時頃、療養所内でヒガラ2羽以上、ルリビタキ♀タイプ。午後1時30分頃、同所でククイタダキ1羽（鈴木紀雄）。

嵐山町花見台 ◇2月10日午後1時30分～2時30分、第一公園でベニマシコ♂2羽、ジョウビタキ♂、シメ、アオジ、ホオジロ、ツグミ他。枯葉をくわえたシジュウカラが飛び交った（鈴木敬）。

渡良瀬遊水地 ◇2月13日午後2時過ぎ、チュウヒ数羽、ハイイロチュウヒ♀2羽（鈴木紀雄）。

東松山市大谷 ◇2月26日午前9時40分頃、水穴配水場入口付近でウグイスのさえずり（鈴木敬）。

東松山市物見山 ◇3月2日午後3時頃、ウソ♂7羽♀5羽、今日は出ないとあきらめて帰りかけたが、駐車場で振り返って見つけた。他にオオタカ、エナガ、アオジ、シメ、ホオジロ、カワラヒワ、シジュウカラ（新井巖、島田恵司）。

東松山市岩殿観音 ◇3月2日、ミソサザイ（新井巖、島田恵司）。

狭山市智光山公園 ◇3月3日、オシドリ3番が岸に上がって草を食べていた。3月4日、ベニマシコ♀1羽（小林ますみ）。

坂戸市高麗川 ◇3月6日午後5時過ぎ、城山橋近くの川原の高木にツグミ約50羽。春を迎えて北に渡る集合なのか、それとも晴なのでしょう。ツグミのこれだけの群れは初めて見ました（増尾隆）。

越生町桂木観音下 ◇3月12日午後1時19分、大高取山（376.4m）のハイキングコースで桂木観音の下桜の木でウソ♂2羽♀2羽が桜の新芽をついばんでいた。これでウソが嫌われ者になるんだよね（桜庭勇、赤



ヤツガシラ（藤原詩歩5歳）

坂忠一、松井昭子、松井昭吾）。

熊谷市大麻生野鳥の森 ◇2月24日午前8時40分～11時30分、野鳥の森の池の周りでマヒワ13羽、水辺に降りて採餌。ルリビタキ♀1羽、アカゲラ4～5羽、地上に降りてムクドリ群れの中で採餌するという珍しい行動を見る。アオゲラ1羽他計28種（後藤康夫）。

熊谷市 ◇3月11日朝、JR熊谷駅でイワツバメ初認。多分、土曜日から日曜日に来たんでしょね（森本國夫）。

深谷市中瀬 ◇2月28日午後3時頃、ケアシノスリ1羽、利根川河川敷の枯れ木にとまっていた。尾羽などいたんできていた。3月4日午後3時30分頃、コホオアカ1羽、アシの茎につかまっていた。冬羽なのでアイリングもそれほど目立たなかった。頭中央線、胸の縦斑などよく確認できた（鈴木紀雄）。

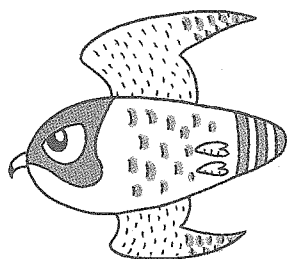
川本町荒川明戸堰上流 ◇3月2日午前10時30分～午後1時30分、コハクチョウ105羽、ホオジロガモ♂2羽♀2羽、キンクロハジロ、ホシハジロ、オナガガモ、コガモ、マガモ、カルガモ、アカゲラ♂1羽、ベニマシコ、シメ、アオジ他計33種（後藤康夫・喜久子）。

表紙の写真

サシバ（タカ目タカ科サシバ属）

撮影：手塚正義 夏、シベリア東南部・中国東北部・日本で繁殖し、冬は東南アジア・ニューギニアなどに渡る。秋の渡りは群れで行動し、愛知県伊良湖岬や鹿児島県佐多岬などが、数多く渡って行く名所として知られている。当支部研究部も、毎年県内の渡りの調査を続けている。東南アジアまで渡らずに、沖縄で越冬するものも多い。この写真は、今年の1月、宮古島で撮影したもの。（解説：編集部）

行事あんない



(何森 要)

千葉県習志野市・谷津干潟探鳥会

期日：5月4日（土・祝）

集合：午前9時40分、JR武蔵野線南船橋駅改札口付近。

交通：JR武蔵野線武蔵浦和8：34→南浦和8：37→南船橋9：29着。

担当：杉本、菱沼（一）、手塚、長谷部

見どころ：里山と並び注目されている干潟の探鳥会です。埼玉では珍しい鳥たちが夏羽の装いで待っています。干潟の生き物たちも一緒に見てやってください。

その他：終了後ですが、夕方まで粘ると、数百羽のチュウシャクシギのねぐら入りが見られます。

加須市・はなさき公園探鳥会

期日：5月5日（日・祝）

集合：午前8時45分、東武伊勢崎線花崎駅南口、または午前9時はなさき公園駐車場。

交通：JR宇都宮線大宮8：01→久喜8：21着にて、東武伊勢崎線春日部8：13→久喜8：28発に乗車→花崎8：40着。

担当：中里、玉井、長嶋、田村、宮下、四分一、樋口、伊藤（隆）

見どころ：青葉若葉がきれいな公園をゆっくりと歩きながら、心地よい五月の風を肌で感じてみませんか。アシ原ではオオヨシキリが恋歌を元気いっぱいに歌っています。山に行く途中の夏鳥も探

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。悪天候の時は中止、小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

してみましょう。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：5月6日（月・祝）

集合：午前8時45分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。

担当：田中、玉井、中村（榮）、吉安、長嶋、長野、松永、榎本（建）

見どころ：ゴールデンウィーク最後の日、元荒川から黒浜沼への広々とした田んぼを歩いてみませんか。お目当ては、渡り途中のムナグロです。この日は暦の上で立夏。アマサギ、コアジサシなどの夏鳥にも会えるといいですね。

長野県・白馬山麓探鳥会（要予約）

期日：5月11日（土）～5月12日（日）

定員に達したので締め切りました。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：5月12日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9：11発、または寄居8：49発に乗車。

担当：榎本（秀）、和田、森本、中里、倉崎、石井（博）、高橋、後藤、藤田、栗原、大澤

見どころ：五月晴れの空に、ついつとツバメやコアジサシの涼やかな飛翔。オオヨシキリの声にもぎやかに、大麻生に初夏の訪れです。

長野県・戸隠飯綱高原探鳥会(要予約)

期日：5月18日(土)～5月19日(日)

まだ若干の空きがあるかも。4月号を
ご覧になり、すぐに申し込みください。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：5月18日(土)午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局108号室

案内：GWの思い出を語りながら…。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：5月19日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東
口、集合後バスで現地へ。または午前
9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺(周)、
若林、兼元、森(力)、小菅、新部

見どころ：例年この頃にカッコウがやってく
る。探鳥会でその声が聞かれるかなと
気にかかる。斜面林の緑も濃くなり、
芝川にオオヨシキリの声が出て、中洲
にキアシシギが姿を見せるとき、初夏
を思わせる風が見沼たんぼを吹き抜け
ていく。心休まる三室へどうぞ。

神泉村・城峯公園周辺探鳥会(要予約)

期日：5月25日(土)～26日(日)

まだ間に合います。4月号をご覧にな
り、すぐに申し込みください。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：5月26日(日)

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8:43発、所沢8:
36発に乗車。

担当：長谷部、高草木、藤掛、中村(祐)、
山本(真)、久保田、山本(義)、石光

見どころ：オオヨシキリやササゴイなどの夏
鳥を探して河原を歩きます。運がよけ
れば、カルガモやシジュウカラの親子
にも会えそう。

渡良瀬遊水地探鳥会に参加して

新部 泰治(さいたま市)

真冬で風のない暖かな渡良瀬は久しぶり。
ミコアイサ、ミサゴ、カンムリカイツブリ、
カモ類などを見ながら東谷中橋へ。

最初に参加した5年前の時は、別な道だっ
た。三室の探鳥会で存じ上げていた新堂さん
に色々親切に教えていただいたことが目に浮
かぶ。その新堂さんが亡くなられたことを、
わずか2ヶ月後の年末講演会の会場で知り、
ショックを受けたものだ。

東谷中橋を渡って、チュウヒ、ノスリ、ち
よっとだけだったがベニマシコなどを見なが
ら、新赤麻橋を経て、子供広場へ。

鳥合せ後、散会。55種出現で私の記録は44
種。広い葦原を悠然と飛ぶ猛禽類は見ごたえ
があった。

昼食後、リーダーのTさんがもう少し見
て帰るとのことと、ご一緒させていただく。

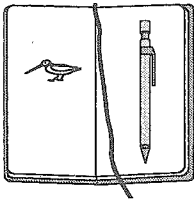
谷中村跡地をまわって北橋、中の島から中
央エントランスまで。ベニマシコよう一度
と期待したが出現せず、北橋のあたりから風
が強く寒くなってきた。

私のために何回もヨシガモを探し、スコー
プに入れていただいたが、識別できず、中の
島観察台でやっとわかった。感謝感激もうバ
ッチリだ。

今後カモを見れば、ヨシガモとTさんの
好意が思い出されることだろう。好きな鳥を
見ていると時を忘れるが、人との暖かいふれ
合いは、それ以上のものを与えてくれる。だ
から私は探鳥会大好き人間なのです。



トモエガモ(池内輝明)



行事報告

11月23日(金、休) さいたま市 見沼自然公園

参加: 57人 天気: 晴

カワウ コサギ アオサギ カルガモ コガモ
オカヨシガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシ
ハジロ オオタカ ハイタカ バン キジバト
コゲラ ヒバリ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨ
ドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ
ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ ア
オジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カ
ケス ハシボソガラス ハシブトガラス (34種)
開始直後の見沼代用水東縁で、ハシブトガラスが
巣立ち前のキジバトのヒナを捕らえ、必死にもが
くヒナをついに代用水に落としてしまうという、
鳥たちの生存競争の厳しい一コマを目撃した。途
中オオタカが2度出現し、見沼たんぼの青空の中、
その姿が大変美しかった。(工藤洋三)

12月2日(日) 北本市 石戸宿

参加: 61人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ アオ
サギ マガモ カルガモ コガモ ハイタカ ノ
スリ コジュケイ キジ バン キジバト カワ
セミ コゲラ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ
アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス ヒガラ
ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カ
シラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ
カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (36
種) ルリビタキとアリスイには振られたが、参加
者の半数ほどが枝に止まったノスリをじっくり見
ることができた。釣堀ではダイサギの漁も観察で
きた。石戸宿にやってきた今年のジョウビタキは
メスが多いようだ。(岡安征也)

1月6日(日) 春日部市 内牧公園

参加: 33人 天気: 晴

コサギ カルガモ オオタカ チョウゲンボウ
タシギ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ
セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ

ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シ
ジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ ア
オジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カ
ケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス
(30種) 凍った公園の池の縁でムクドリの群れが
水を飲んでいて、また、アオジ♀が枝に止まって
いるのをみんなでじっくり観察。公園の事務所付
近でオオタカがカラスにモビングされているの
を見る。雑木林のお墓近くの小路でシメ、モズ、シ
ロハラをみんながじっくり見ることができた。刈
田に出てカシラダカ、また、用水で久しぶりにタ
シギが出現し、みんなを喜ばせてくれる。期待の
タゲリは出てくれなかったが、満足できる探鳥会
であった。(吉安一彦)

1月19日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 9人

江浪功、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、島
田沙織里、島田貴子、成瀬慶一、原田譲、藤野富
代

1月20日(日) 長瀬町 長瀬

参加: 57人 天気: 曇

カイツブリ カワウ アオサギ オシドリ マガ
モ カルガモ コガモ オナガガモ チョウゲン
ボウ キジ コジュケイ イカルチドリ イソシ
ギ キジバト カワセミ アオゲラ アカゲラ
キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒ
ヨドリ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナ
ガ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオ
ジ カワラヒワ イカル シメ スズメ ムクド
リ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス
(37種) 集合時刻の気温は0度。リーダーが丁寧
に冬鳥の識別ポイントをレクチャーしながら、霜
柱をザクザク踏みしめ歩く。冠水橋から見た荒川
は川面がキラキラ輝いていた。お目当てのオシド
リは雌1羽のみ、ヤマセミも観察できなかったが、
秩父の冬の美しさを少しは味わっていただけたよ

うだ。

(小池一男)

1月20日(日) さいたま市 三室地区

参加: 75人 天候: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オナガガモ オオタカ ノスリ チョウゲンボウ キジ バン イソシギ タシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (40種) 正月。300回を目指す探鳥会の始まり。鳥仲間もたくさん。出現鳥も多く楽しい。下見の時にいつものコースは鳥が少なかった。そこで昔懐かしいコースを歩いた。ノスリも出て、秩父のやまなみも綺麗だった。(楠見邦博)

1月26~27日(土~日) 千葉県 銚子港

参加: 19人 天気: 26日=曇 27日=晴時々小雨

カイツブリ ハジロカイツブリ ミミカイツブリ カンムリカイツブリ ウミウ ヒメウ コサギ アオサギ マガモ カルガモ ホシハジロ キンクロハジロ スズガモ クロガモ シノリガモ コオリガモ トビ イソシギ ユリカモメ セグロカモメ オオセグロカモメ ワシカモメ シロカモメ カモメ クロワカモメ ウミネコ キジバト ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ ジョウビタキ イソヒヨドリ ツグミ メジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (40種) クロワカモメ出現のニュースと、当日の低気圧の通過を勘案して、今回は船橋海浜公園には寄らず銚子へ直行。昼前には波崎港(銚子の対岸)に着き、クロワカモメ、コオリガモ、クロガモを次々にゲット。その夜から翌朝にかけては強風豪雨の大嵐となるも朝9時にはぴたりと治まり、奇跡のような青空の下、銚子港を歩く。しかし、外海はやはり大荒れで、犬吠埼では、砕け散る波濤に虹がかかり、その中を舞い飛ぶウミネコと相俟って、一幅の画を見るようであった。(榎本秀和)

1月27日(日) 蓮田市 黒浜沼

雨のため中止。

1月27日(日) 野田市 清水公園

雨のため中止。

1月27日(日) 狭山市 入間川

雨のため中止。

2月3日(日) 北本市 石戸宿

雨のため中止。

2月3日(日) さいたま市 民家園周辺

雨のため中止。

2月10日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 34人 天気: 曇

カワウ カルガモ トビ オオタカ ノスリ キジバト アオゲラ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) 曇り空のうえ、風があり、非常に寒かった。ミヤマホオジロを期待してきた人が多かったが、出てくれず残念。しかし、久々にアオゲラが出て、また野鳥の森の池のそばではルリビタキが雄、雌とも見られて、皆さん満足げだった。(和田康男)

2月10日(日) さいたま市 大宮市民の森

参加: 47人 天気: 曇

カイツブリ カワウ コサギ カルガモ コガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ バンタシギ ユリカモメ キジバト カワセミ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ヤマガラ シジュウカラ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) 曇天で寒い中開始する。冬鳥も順調に出現し、過去に出現していないカケスも顔を出してくれた。最後は、目玉の芝川のカワセミを橋の上から全員でじっくりと観察できた。JR土呂駅から数分というこの環境が将来にわたって残っていて欲しいものだ。(工藤洋三)

連 絡 帳

●第 28 回定例評議員会開催

3月16日(土)、都内新宿区で開催。関東ブロック選出評議員として橋口長和幹事、傍聴人として海老原美夫副支部長と山部直喜編集部長が出席。事業計画案・予算案、事業進捗状況・決算見込み、役員選出、評議員会制度検討委員会報告の承認などが審議され、支部監事の楠見邦博が理事に、副支部長の海老原美夫が本部の監事に選出されました。

●野鳥販売実態調査

昨年6月号に同封した「バードウィーク全国一斉野鳥販売実態調査2001」の結果報告を同封します。ご協力ありがとうございました。

今年も「同調査2002」が行われます。支部報のみが郵送される会員には今年の調査票は同封されません。ご希望の方は、「(財)日本野鳥の会自然保護センター 野鳥販売調査係 TEL : 03-5358-3518 FAX : 03-5358-3608 E-mail : hogo@wbsj.org」にご請求ください。

調査にご協力いただく時は、野鳥の会の会員だからといって、普通の市民以上の調査権限や法的保護は一切ないこと、正規に輸入された野鳥を販売することは、現在の法律では違法ではないことをご承知の上、トラブルのないように十分にご注意をお願いします。

●「薮内正幸の世界」展

生き生きとした鳥たちのイラストで知られ、2000年6月に60歳で亡くなられた画家・薮内正幸さんの原画展が、(財)日本野鳥の会の協賛などで開催されます。

期間：5月1日(水)～12日(日) 6日は休館
会場：船橋市民ギャラリー(船橋市本町2-1-1、TEL 047-420-2111)

入場料：大人500円 小中学生200円
併設：動物画の草分け・小林重三の作品展

●会員の普及活動

2001年11月から2002年3月まで5回にわたって開催された蓮田市中央公民館主催のバードウォッチングでは、中島康夫支部長と田中幸男、玉井正晴、中村榮男、長嶋宏之、吉安一彦の6名が、3月10日(日)に開催された坂戸市「ふるさとの川高麗川を考える会」第14回野鳥観察会では、増尾隆、増尾節子、坂口稔、坂口和子の4名が指導しました。

●5月の事務局 土曜と日曜の予定

6日(月・休) 6月号編集作業。
11日(土) 6月号校正。
18日(土) 6月号袋づめの会。
19日(日) 役員会。

●会員数は

4月1日現在2,691人です。

活 動 報 告

3月9日(土) 校正作業(海老原美夫、大坂幸男、喜多峻次、藤掛保司、山田義郎)。
3月14日(木) 普及部便り発送(海老原教子、楠見文子)。
3月17日(日) 役員会議(司会：橋口長和、各部の報告・行事予定追加・その他)。
3月18日(月) 4月号発送(倉林宗太郎)。

編 集 後 記

越谷市の傷病野鳥里親制度で、チョウゲンボウをあずかっている。今では、私の手から餌をとるようになったが、嘴ではなく、足で受け取る。里親として、マナーの躰をしたほうがよいのだろうか。(山部)

しらこぼと 2002年5月号(第217号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130

〒336-0012 さいたま市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階

(財)日本野鳥の会 会員センター業務室 TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社